

第2回長崎みらい創造セッション 成果報告

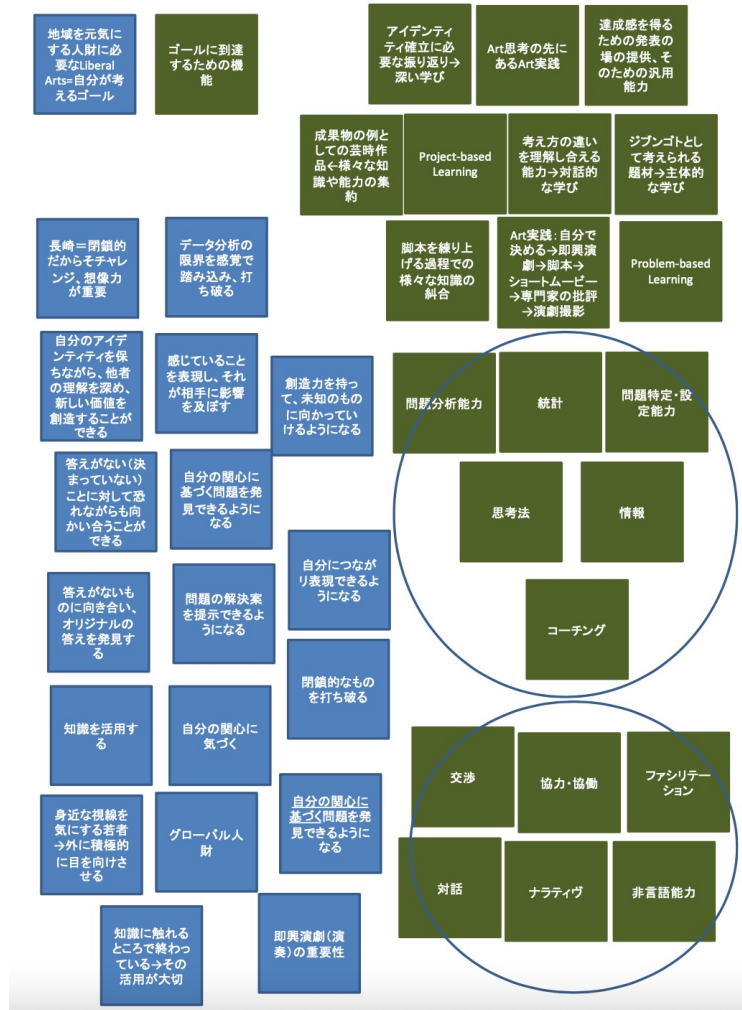
長崎大学人文社会科学域
2022年3月26日開催

ワークショップ内容

- 2022年3月26日13：30-16：30
- ZOOM
- 1回目のワークショップの結果から抽出された8つの要素について、バックカスティングで、その機能がうまく働いた6年のありたい姿をみらいの新聞記事として具体化する。
- チーム
 - チーム1:地域を元気にする人財に必要な(Liberal)Arts教育検討チーム
 - チーム2:地域を元気にする人財に必要な知識とその教授方法検討チーム
 - チーム3:地域を元気にする人財のための県内大学が連携したPBL教育プログラム検討チーム
 - チーム4:地域を元気にする人財を育成するための高大接続教育検討チーム
 - チーム5:地域を元気にするための社会人向けの教育コンテンツ検討チーム
 - チーム6:地域を元気にするための産学（官）連携の具体的方法検討チーム
 - チーム7:地域を元気にするための（産）学官連携の具体的方法検討チーム
 - チーム8:地域を元気にするためのグローバル・多様な社会と連携した教育検討チーム



チーム1:地域を元気にする人財に必要な(Liberal)Arts教育検討チーム



日本経済新聞 2028年(令和10年)3月26日(土曜日)

第一回長崎国際芸術祭作品がエディンバラ演劇祭で脚本賞を受賞

長崎発新しいリベラルアーツ教育の型

「ある家族の物語」がエディンバラ演劇祭脚本賞を受賞

脚本(ストーリー)、音楽、美術、照明のコンセプトは学生自らがプロの脚本家、教員の助言のもと作り上げ、プロの演出家、俳優、舞台関係者、音楽関係者と協働して舞台を作り上げた。受賞した脚本はコロナ禍の社会課題の解決という大きなテーマの中で学生たちがチームに分かれてその関心に基づいて問題設定を行い、課題解決を見出す取り組みの中から生まれたものである。作品は「家族の心理的な諸相」に焦点を当てたチームによって書き上げられ、コロナ禍で傷つく家族の心模様とその再生を描く内容となっている。

ミネルバ大学とも連携
この脚本作りを可能にしたのはミニケーション能力(コーチング、ファシリテーション)、交渉、協働、言語能力、非言語能力(思考能力、思考法、発見、問題設定、統計、情報)をリベラルアーツ教育(基礎学習)として組み込んだ令和6年度から始まった長崎大学等連携推進法人の教育改革にある。

同法人は教育プログラム改革を行うにあたり21世紀を担う人材を育てる教育プログラムを社会を巻き込んで構想した。その構想を問題設定と解決の中でミニケーション能力と思考能力といった実践的知識を育成するプログラムを開発したミネルバ大学の助言を受けながら具体化していったという。

このプログラムを受講することで学生たちは、的確な問いを立て、知識や情報を整理し、相互の対立を調整していく不確実性が増す世界を生き抜く力を身につけていく。

長崎大学等連携推進法人が提供する教育プログラムは、今回の脚本賞の受賞以上に社会の注目を浴びそうだ。

エディンバラ映画祭
Edinburgh International Film Festival
with Purpose
Prepare to make an impact by joining our industry experts for an industry orientation.

ミネルバ大学HP

チーム2：地域を元気にする人財に必要な知識とその教授方法 検討チーム

教える量を、効率的効果的にして、減らし、午前中で座学を終了させ、午後はフリーに色々なことに挑戦できる状態を作る。ただし、総括する場はしっかり作っていく。

失敗や成功体験を身につけ自己肯定感を育成する

幼稚園、保育園、学校等への実習を必修。

縦・横・斜めの関係

発信力開発

・社会の様々な課題を解決するための、自分なりの考えをプレゼンテーションできるような場、グループディスカッション

伴走する人

大学にカフェを併設、学生主体で運営する体験

離島での生活体験

リカレント教育。大学院は進んでいる

学びたいときに学びたいことが学べる。

発信力開発

・社会の様々な課題を解決するための、自分なりの考えをプレゼンテーションできるような場、グループディスカッション

社会人の入学をもっと推奨しては？

グローバルな未来のひとづくり学部から初の卒業生
長崎大学が初めて問題解決学部を設置

・学生起業家続出！長崎から世界へ！

感染症から生まれた新たな学び社会の変化

「自信をもって強くなった」：学生たちの発言

皆さんからのフィードバック

高校生とどうからむのか

新しいものを使わないと生き残れない

何人ぐらいの学部

失敗から学ぶところがいい

街角キャンパスおもしろい

学んで何だろう

大学が失敗を推奨

やっちゃった大賞

おもしろいなあ

夢あふれる

日本経済新聞 2028年（令和10年）3月26日（土曜日）

グローバルな未来のひとづくり学部から初の卒業生 学生起業家続出！長崎から世界へ！

感染症から生まれた新たな学び社会の変化

様々な教材がオンデマンドで提供されていて、いつでもどこでも学べる体制が確立。学生は自分の好きな時間に学習して、午前中は学校に集まり、上級生のフーテのもと、オンラインに参加する社会人などとともに、議論を行っている。学校に併設された、学生が運営するライブ配信ダイアログカフェでは、その日のテーマについて集まったプレゼンターと聴衆が熱心に対話している。この議論はライブストリーミングされて、誰でも見ることが出来る。様々な世代の人が視聴しており、ライブコメントもたくさん入ってくる。フューチャーは100万人に達して、広告収入で金を運営できるまでになった。中でも、学生たちの失敗発表会は一番人気で、その失敗を称賛したり、その改善策がさまざまな学生や卒業した起業家などから寄せられている。ダイアログを通じて学びのプロセスをお互いが共有している。

学生たちは、午後はキャンパスから飛び出して、「未来の自分を見つけよう」をテーマにしたタテヨコナメに学び合えるラーニングコミュニティに参加している。自分が興味持つテーマについて、他の大学生や高校生、起業家とともに取り組み、その解決策を探索している。「学生の間に、何度も失敗し、皆さんから様々な助言を得られた結果、事業を越すことができた」とこの学部の大一探卒業生で起業した山田君は言う。「自信をもって強くなった」学生たちの発言があり、失敗から立ち直る、しなやかな力、レジリエンスが養われていると、社会からも称賛されている。自治体が抱える課題に対して、自治体職員や議員だけでなく、学生が地域に入ってインテロビュしたり、アンケートをとったり、ワークショップをフシリテータしたりして、よりよいまちづくりが進められている。社会が引き起こしている失敗と、学生が起す失敗から、新しい変化の芽が生まれている。地方自治体、教育機関との連携がタテヨコナメで進んでいる。

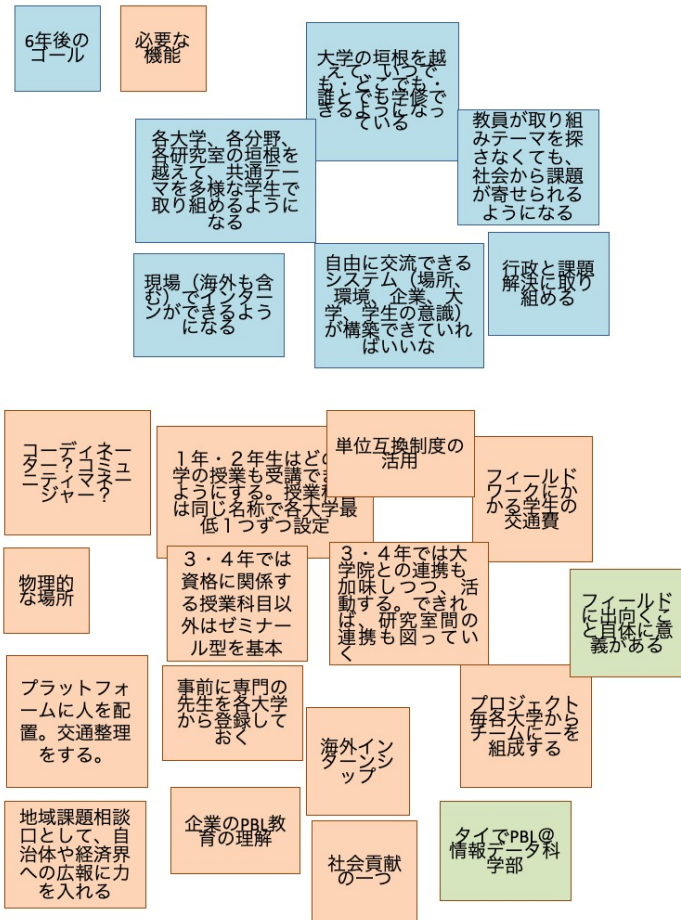


桜の下で行われた、かたらんば

街角キャンパス
起業した学生には、ラーニングコミュニティに親密された、障害者でも済みやすい長崎の街を取り組み、障害者の方でも住みやすい町を創る道を立ち上げて、現在は日本にとどまらず、中国やヨーロッパの国々にも活動を広げている。

チーム3:地域を元気にする人財のための県内大学が連携したPBL教育プログラム検討チーム

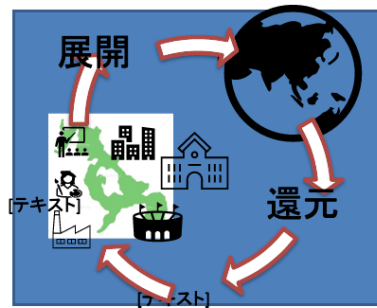
日本経済新聞 2028年(令和10年)3月26日(土曜日)



今年4月、県内5大学が連携してPBL教育プログラムを共同で実施する。この取り組みは、県内各大学の垣根を越えて、教員が取り組みをテーマから課題に寄せられるようになることを目指している。また、行政と連携し、社会貢献の一環として取り組む。この取り組みは、県内各大学の垣根を越えて、教員が取り組みをテーマから課題に寄せられるようになることを目指している。また、行政と連携し、社会貢献の一環として取り組む。

飛び出すPBL長崎から世界へ
 いっしょでも・でも・誰とでも、
 PBLで築く自立する学び

この取り組みは、県内各大学の垣根を越えて、教員が取り組みをテーマから課題に寄せられるようになることを目指している。また、行政と連携し、社会貢献の一環として取り組む。この取り組みは、県内各大学の垣根を越えて、教員が取り組みをテーマから課題に寄せられるようになることを目指している。また、行政と連携し、社会貢献の一環として取り組む。



地域連携プラットフォームに自治体、事業者から課題が寄せられる。この課題は、長崎県に限定されず、海外の連携大学から寄せられる。この取り組みは、県内各大学の垣根を越えて、教員が取り組みをテーマから課題に寄せられるようになることを目指している。また、行政と連携し、社会貢献の一環として取り組む。

チーム4:地域を元気にする人財を育成するための高大接続教育 検討チーム

チャット

- 高校の教育課程に大学
- 4-T-コーシー から全員に 01:49 PM
- 高校生が放課後大学の研究室にやって来て、大学生と一緒に活動している
- 4-F-しょう から全員に 01:50 PM
- 大学生と高校生と一緒に学ぶ場を設ける
- 4-P-いそから全員に 01:50 PM
- 高校生が興味のある分野で大学・大学院相当の教育を受けられる。そのような生徒は既存の大学入試を経ることなく、大学に入学できるようになっていると良いと思います。
- 4-Sさくら から全員に 01:50 PM
- 高校でしている探求の授業を高校だけではなく、大学側の意見を取り入れながら協働ができています。
- 4-T-三好啓介 から全員に 01:51 PM
- 高校に入る段階の前である中学生が大学との接点を持つ。
- 4-T-コーシー から全員に 02:04 PM
- こういう活動が部活と同列に評価されるよいのでは？
- 4-Sさくら から全員に 02:27 PM
- 探求活動の質を向上させる。そのために生徒を導いていく先生を育てることがまず必要だと思う。
- 4-P-いそから全員に 02:28 PM
- 高校生が興味があることを自由に学習できる環境。例えば、誰でも地域課題を解決するためのプロジェクトを立ち上げられて、他の学校の高校生や大学生～社会人で参加したい人がそれに参加できるなど。
- 4-T-コーシー から全員に 02:28 PM
- (中学生・高校生も含めた) 地域の人達に開いた大学の研究室と活動。
- 4-T-三好啓介 から全員に 02:32 PM
- ①コンテンツ②多様性の広がり③授業改善④探究の指導

見出し案

- 長崎大学，県内高校の探究授業に全研究室を開放
- 高校生が高校教育を自ら改革
- 高校の探究学習の実績に応じて大学に進学
- 地域全員参加で地域課題を解決
- 探究授業，地域課題解決の切札に
- 人口減少問題を解決、高校生が発案
- 新しい高校教育✖最先端の探究活動
- 長崎発 世界高大サミット開催
- 面白い人生を切り開いていく教育

高校生が高校教育を自ら改革 新しい高校教育✖最先端の探究活動

探究学習が高校教育に本格的に導入されて久しい。長崎県では生徒が興味を持ったことに対して主体的に学びを進め、教員と協働して授業そのものをより良くする取り組みも生まれてきた。今回は、際立った成果を挙げている2校の事例を紹介する。

探究学習が本格化して約6年が経った今、当時高校生だった生徒がそれぞれの人生を切り拓いて行っている。高校での学びを大学生や教授等が支援するシステムが構築されたことにより、探究の質の向上が加速した。今回は探究活動を通して人生が変わったと感じている2人を紹介しよう。

一人目、彼女は「高校時代の探究活動で『教育』について探究しており、生徒と教師が話し合っただけでなく、授業を自ら作り変えていく活動をしてきた。彼女は活動する上で生徒をまとめていく大変さ、授業を作るための大変さを知った。それは長崎での人材育成のために活動している。

J高等学校	生徒が主体的に学ぶために授業を自分たちで提案
S南高等学校	SDGsダンジョンゲームアプリを生徒たち自らが開発

次に二人目、彼が通うS南高等学校ではSDGsダンジョンゲームアプリを生徒自ら開発する活動を展開している。

授業で学んだプログラミングの知識を活用し、OS制作、音楽制作も行っている。

生徒たちはこの活動を通じて将来の進路選択を考えている。

チーム6:地域を元気にするための産学（官）連携の具体的な方法検討チーム（1/2）

日本経済新聞 2028年（令和10年）3月26日（土曜日）

目的 若者が長崎でイキイキと働くことができる

課題 若者がイキイキと働くためには？

大見出し 若者が働きたい街ランキング1位小見出し 小見出し 就職・転職部門、起業・創業部門、リカレント教育部門総なめ

人事、キャリアコンサルタントがいる場所

それ、どうということ？ってのを狙って、あえて抽象的に。ここにきたら変わる、教育環境

仕掛けて人を呼ぶ
長崎の人ってすごいよねって全国に出て活躍する形がきれい。
ビジネスと結びつき、行政の連携がみえるところ

長崎で働いた後に活躍するってのを重視

長崎を元気になってのが、チームの解釈でOK

長崎に

長崎県、起業家創出ランキング1位の県に

離島、無人島で事業アイデア創出

なぜ、長崎発の起業家が多いのか？
起業家創出の現状は、離島、無人島の事業創出プログラムにあった。
長崎出身者の企業家数は2020年以降全国トップ。長崎県では産学官連携により離島、無人島を舞台として、地域社会の抱える課題の解決に向け調査・事業化する仕組みを構築。
このプログラムにおいては産業界も連携し、将来性・事業性のある事業については会社設立・事業実施まで行っている。
こうしたプログラムへの参画経験が学生の起業マインドを高めていることが要因として挙げられる。

プログラム内容
プログラム内容 長崎県が抱える地域課題の解決を通じて、産学官が連携し、新商品開発などの検討を行った。検討にあたっては、離島や半島で暮らす人々から聞き取りを行ない、若者が自分を見つけていることができるようになった。

若者流出日本一からの大逆転！

たった6年で汚名を返上した飯田はどこにあるのか？
そこには数知れない失敗もあったようだ。
長崎では若者にとって魅力ある町を目指そうとあらゆる研究を行ってきたが、当初は施設などのハードウェアばかりに注目されてきた。
それらの改善も行われてきたが、結局変化にはつながらなかった。
一方、有志によるあるプログラムが注目されて以降、風向きが変わった。
それが2025年のことである。
それからのいくつかのロコミでうわさが広がりはじめた。若者が集まった。
そのプログラムとは、離島で行われる起業家育成支援であった。
必要なのは、外側から与えられるメリットではなく結局は自身の内側からの欲求に訴求するだけであった。

長崎初の上場企業

長崎の無人島事業創出プログラムにて事業アイデアを飛掘。
アイデアを元に、長崎を元気にする人材を育成すべく2025年に設立。

「長崎みらい創造株式会社」
代表取締役：古川桃子

設立：2025年
社歴：若者を中心としたキャリアデザインのコングラメントを行い、2028年に上場。



チーム6:地域を元気にするための産学（官）連携の具体的な方法検討チーム（2/2）

若者が地域でイキイキと働くことができる

- 【メモ】
- ①長崎の大学と企業が連携し、新商品、新サービスの開発を行い、持続可能な生産と消費ができている
 - ②産学連携にて地域課題を解決する事業の実施、およびそれら事業が自立的経営を行える状態になっている。KPI: 5事業（社）
 - ③「各自が納得できるキャリア形成ができるようになってきている」人がイキイキと働くことができる→個人のモチベーションが組織に反映される→地域が元気になる
 - ④産学官が物理的に集まるといえば「ここ」といった固有の場所が出来ようになっている
 - ⑤若者が集い、交流し、まちが賑やかになっている。

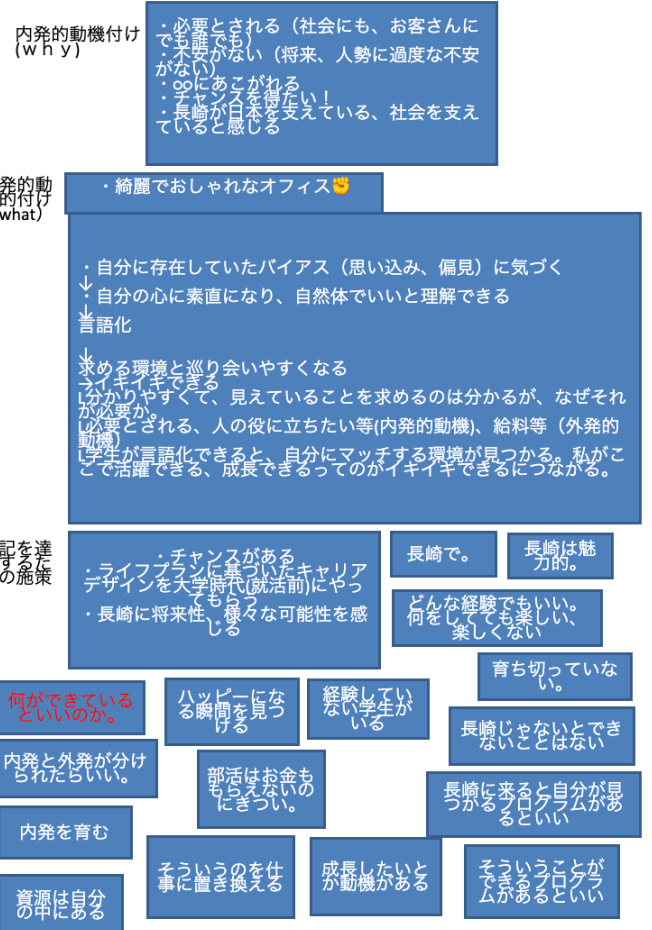
ペイするところまでやれると価値があるものになる

若い人が自分がしたいことが見つからない。

産学官の具体的な検討チームだから、何か成果物を作った方がいい。長崎のシンボル。

長崎と言えば、離島とか辺鄙なところでの課題を若者が解決する未来

目的	若者が長崎でイキイキと働くことができる
課題	若者がイキイキと働くためには？
要素	<p>①必要とされる（社会にも、お客さんにも誰でも） ②不安がない（将来、人勢に過度な不安がない） ③チャンスがある（何かをやると思った時にその土壌や機会があるのか、見える範囲であるかないかが重要）</p> <p>イキイキと働いている大人と接点を持つ（ロールモデルを見つける） 自分の興味関心を深められる機会が社会にある 長崎が日本を支えている、社会を支えていると感じる</p> <p>・ライフプランに基づいたキャリアデザインを大学時代(就活前)にやってもらいたい ♀女性には特に、結婚や子育てもあるから。 ・長崎は将来性、様々な可能性を感じる ♀友達はみんな外に出る。長崎は何もないじゃんと思っている。それがダメなんじゃないか。 ♀長崎が今後盛り上がるぞって感じ。 ・綺麗なおしゃれなオフィス ♀モチベーションが上がらない。 ♀同じ待遇だったり綺麗なオフィスが良い。</p> <p>学びの場がある。仕事がある。起業・創業できる環境がある。 ♀女性が県外にでていってしまう。綺麗なオフィス環境、出産しても働き続けられる環境。 ♀仕事することで社会貢献に繋がる ♀就職しなくても起業できる環境、デジタルの発達によって離島にいても仕事ができる。 ♀アントレプレナーのプラットフォーム</p> <p>→機会があっても、そこに触れられる、刺激を持てることが大事。</p> <p>「イキイキ」がポイント！ 心理学的なアプローチになりますが・・・ ・自分に存在していたバイアスに気づく ・「べき」からの脱却 ・自分の心に素直になり、自然体でいいと理解できる そのためには、若い人たちが自分が本当に求めていることを言語化できるようになることが必要 その結果、求める環境と巡り会いやすくなる →イキイキできる</p>



持続可能な社会

具体的なアイデア、事業を創る

若者 離島

社会に出て行くことと不安を深める→若者が長崎を盛り上げたい動機づけが見つかる。

若者に何かを訴求していく。

チーム7:地域を元気にするための (産) 学官連携の具体的方法検討チーム

日本経済新聞 2028年(令和10年)3月26日(土曜日)

170年ぶりに『Dejima』復活 日本初の教育・文化を軸とした グローバル経済特区誕生

出島特区としての「知の都」が誕生した。長崎では团山4(細菌・ウイルスに関する最高レベルの研究施設)など施設の拡充がされた。また、英語が公用語のゾーンが設立された。鎖国の中唯一開かれた長崎・出島が、百七十年ぶりに復活を遂げた。地域の世代間交流、県内・県外の教育文化交流がなされる。

スタートアップ企業全国ナンバードワン長崎自慢大会で世界ナンバードワンになった。地域の誇りを持った土壌があることが伺える。



現在、長崎県は初の人口転入超過を果たした。外国人(留学生等)の割合も半数を超えている。

